

第6回 学生・若手技術者のためのキャリアアップワークショップ

山田 剛史

東京理科大学 IEEE SB,

1. はじめにワークショップの概要

2011年10月29日に慶応義塾大学(日吉キャンパス)にて、「第6回 学生・若手技術者のためのキャリアアップワークショップ」が開催された。これは、IEEE Tokyo GOLD Affinity Group, IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group によって企画され、東京電機大学 Student Branch, 慶応義塾大学 Student Branch, 東京理科大学 Student Branch, 横浜国立大学 Student Branch, 明治大学 Student Branch, 早稲田大学 Student Branch との共催によって催されたものである。

2. ワークショップの概要

2.1. ワークショップの目的

本ワークショップの目的は学部生・修士課程・博士課程の学生と若手技術者や研究を対象とし、自己の進路やスキルに対する意識改革を促すことを目的とした。「新入社員として必要なこと」、「大学と企業における研究活動の違いとは？」などのテーマについてワークショップ形式で議論する機会を確保し、参加者がこれから社会で活躍する準備を行うのに役立つためのものである。

2.2. ワークショップの内容

本ワークショップを進行するファシリテータとして、産業界や研究、教育機関で活躍中の若手研究社・技術者を6名お招きした。各ファシリテータを中心としたA-Fの7グループに参加者を分け、各グループではファシリテータが設定したテーマにかんする議論を行なった。ファシリテータの主な役割は、自身の経験やスキルアップについて振り返りながら議論の進行を行うことである。また、各グループにファシリテータのサポート係を配置し、活発な議論を促すと共に進行の記録を取る役割を依頼した。

2.3. プログラム

本ワークショップのプログラムは、下記の通りである。
司会：大越康晴(IEEE Tokyo Gold Chair, 東京電機大学)
13:00~13:30 受付
13:30~13:35 開会挨拶：西原明法先生(東京工業大学)
13:35~14:00 ファシリテータの紹介
14:00~14:05 休憩
14:05~15:35 各テーマに分かれてディスカッション
15:35~15:45 グループ内でまとめ
15:45~16:00 休憩
16:00~16:40 各グループの結果のまとめの発表
16:40~16:50 閉会の挨拶：笹瀬巖先生(慶応大学 SB Counselor)
17:30~19:30 懇親会



開会挨拶の様子

グループ	氏名	所属	テーマ
A	馬谷輝彦	KDDI 株式会社	新入社員として必要なこと
B	小野原雄平・ 永田良太	株式会社インターネットイニシアティブ	インターネット通信業界で活躍する人材とは？
C	谷城博幸	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	社内でのキャリア構築と人材育成について
D	村上知子	株式会社東芝	大学と企業における研究活動の違いとは？
E	山下真司	株式会社富士通研究所	日本人が海外で活躍するには？
F	矢野絵美	IEEE JC WIE	IEEE の活動を通してのグローバルキャリア形成

3. 当日の様子

当日のワークショップ参加者は、関係者も含め 47 名であった。その人数構成は学生 32 名 (IEEE 学生会員 17 名, 非会員 15 名), 一般 8 名 (IEEE 一般会員 7 名, 非会員 1 名), ファシリテータ 7 名であった。グループごとの議論の流れやまとめを以下に記す。

3.1. グループ A

A グループは「新入社員として必要なこと」というテーマに対して、KDDI 株式会社より馬谷氏をファシリテータとしてお招きし、ディスカッションを行った。

ディスカッションは各々が自由に発言したものをツリー構造にまとめながら、上がった意見に対して馬谷氏がアドバイスを加えるという形式で行われた。特に馬谷氏が 2 年目の社員であることから、学生と社会人の双方の視点を踏まえたアドバイスをしているのが印象的であった。議論が進む中で上がった意見を要素ごとにグルーピングし、議題の結論を次の 4 要素にまとめた。

「意識」…社会人としての自覚を持つということ 「対人」…上司や同僚、社外の人と如何に接するか 「仕事の進め方」…自分の行動が効率的に利益につながっているかを意識すること 「知識」、ビジネスマナーから専門知識まで可能な限り身に付けること

3.2. グループ B

株式会社インターネットイニシアティブの方からの協力得て、「インターネット通信業界で活躍する人材とは」のテーマについて、学生と企業の方で話し合いを行った。

まずは、プレスト形式で、「インターネット通信業界」の定義を各参加者で決めた。インターネット通信業界という言葉から、Facebook・twitter といったアプリケーションを一部が連想した一方で、大半は、インターネットのインフラを支えるバックボーンを連想した。

次に、この業界の会社ではどのようなことをしているかについて話し合った。主に二つ、「新規」と「保守」の分野に分けた。前者は、新しい規格を取り入れたり、新しいサービスへのソリューションを行い、新しいマーケットに対して市場の開拓を行っていくものである。後者は既存のネットワークの保守・運用・点検を行うものである。

最後に、今回のテーマの主眼である活躍する人材について、話し合った。「新規」に対しては、仲間を集めたり、空気を読まないで自分の意見を押し通せる人や、広い視野を持って未来のビジョンを持っている人等が挙げられた。「保守」に対しては顧客対応が重要であると予想し、人当たりの良さ、打たれ強さ、また起きた問題に対して、機転を利かせた柔軟な対応ができる人であると考えた。

3.3. グループ C

グループ C では「社内でのキャリア構築と人材育成について」についてディスカッションしました。

進行方法として、「社内」「キャリア構築」「人材育成」の三つのキーワードについて時間を配分しそれぞれプレストしました。以下にその概要を記します。

まず「社内」についてです。学生が社内に対するイメージをしやすくするために普段の生活スタイル、時間の使い方などについて意見を出し合い、社内と学内の違いを見出しました。次に「キャリア構築」についてです。学生や社会人に関係なく、自身のキャリアアップのモチベーションやその具体的な方法について話し合いました。最後に「人材育成」についてです。ある集団において、その技術やノウハウの継承、各個人の対人マナーの教育について様々な意見が出てきました。以上三点からまとめると、自身がキャリアを構築する際にはある適度な目標を立てその終着点までの経緯は幅を利かせて行動する。人材育成については OTJ(On-the-Job Training)で現場の経験を体感することで身につける。会社内と大学内は明確な違いはあるものの、このキャリア構築・人材育成を学び実践する場は両集団も変わらないという結論になりました。

3.4. グループ D

グループ D では、「大学と企業における研究活動の違いとは？」というテーマについてファシリテータの株式会社東芝の村上さんを迎えてディスカッションを行った。

初めにインターンシップに行った経験がある 3 人の学生から、実際に感じたことについて話してもらい、それらを踏まえてインターンシップを経験していない学生から研究活動の違いについて話してもらう形で議論を進めた。

議論で挙げた意見をまとめると大学の研究では、「新規性を重視」、「目標が漠然」、「個人で行う」といった意見が挙げられ、企業の研究では、「実用性」、「目標が明確」、「チームで行う」といった意見が挙げられた。

これらを踏まえた上で、「研究・開発職の就職をイメージして今から何を行ったらよいか」ということについて議論した。その結果、「主体性」、「プレゼンテーション能力」や外国人に自国アピールをする際の「コミュニケーション能力」などが挙げられた。



グループディスカッションの様子

3.5. グループ E

議論の記述方法はリスティング（フリーライティング）で行いました。テーマからサブテーマを設定し、それについて自由に議論して、その中から出たキーワードをリスティングしていく方法です。

時間配分は特に決めず、臨機応変に進行しました。（そのためサポーターの自分がタイムキーパー的な役割をしました。）まず、「海外で活躍する日本人（個人、団体など）」を挙げ、その人たちがどのような点で活躍しているのかを議論しました。（20分）

次に「海外で活躍するために必要な行動」を考えました。個人単位でできること、団体単位でできることに分けて考えました。（40-50分）

また、その議論と並行して「個人が海外へ出る際に壁となっていること」（正確なテーマ名を忘れました）について議論しました。（30-40分）

最後に各サブテーマに出てきたキーワードの中で重要なものを選び、発表の流れと最終的な結論を導き出しました。

ファシリテータの方の意向で自由な形式での議論となったので、議題から話が脱線してしまうことが何度もあり、サポーターの立場としてうまく話を戻すように心がけました。

ただ議論の白熱しているときにはその調子を断ち切らないように配慮しないと、せっかく盛り上がっているのにその勢いを削いでしまうことになりかねないのでタイミングを見計らうのに少し苦労しました。

3.6. グループ F

グループ F では、IEEE JC WIE の矢野絵美様をお迎えし、「IEEE の活動を通してのグローバルキャリア形成」というテーマでディスカッションを行いました。最初に矢野様およびご同席の大野光平様より、WIE および GOLD での活動内容についてご説明を頂きました。また、Student Branch で活

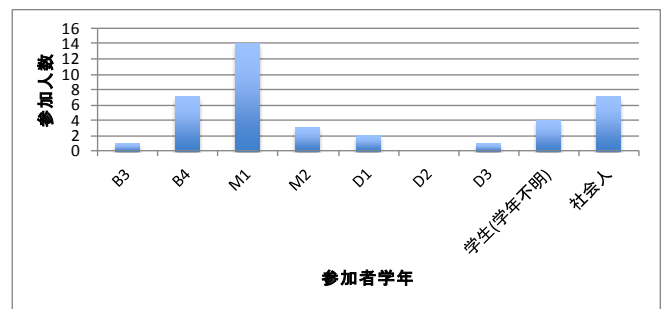
動を行っている学生の方から、2011年7月にニュージーランドで開催された「IEEE Region 10 Student/GOLD/WIE Congress」の参加体験談を頂きました。その中で「海外の方はハングリー精神が旺盛で、よく考え、よく話し、よく行動する」「逆に日本から来た自分達は何をしたらいいのか考えたことがなかった」というご意見を頂きました。そこで、ディスカッションの後半では、日本人の我々がグローバル社会で生き残るにはどうすればよいか、そのために IEEE でどのような活動を行うべきか、というトピックでブレインストーミングを行いました。結論としては、「『無料で行けるから』という不純な動機でもいいので、IEEE の活動の一環で海外へ行く」「IEEE の活動を通じて広い人脈を形成し、英語力の向上に役立てたり、就職・転職・共同研究のきっかけを作る」「英語での議論が苦手な日本人向けに、プレゼンテーション講座やロバーツ・ルール講座を企画、実施する」などといった提案が出されました。

4. 参加者アンケート

ワークショップ終了後に参加者にはアンケートに回答してもらった。ここでは、その結果について述べていく。

4.1. 参加者について

アンケートに回答した 39 名の内訳は学生 32 名、一般 7 名であった。39 名の学生の参加者の学年の構成を下の図に記す。





発表の様子

4.2. ワークショップの企画に対する評価

本ワークショップの企画について、内容や有効性、時間の長さについてそれぞれ下記の5段階で評価してもらい、その理由を自由記述型で求めた、

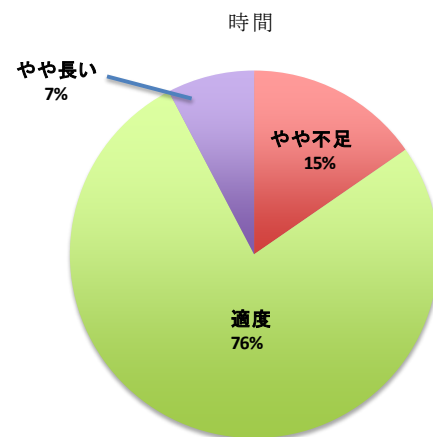
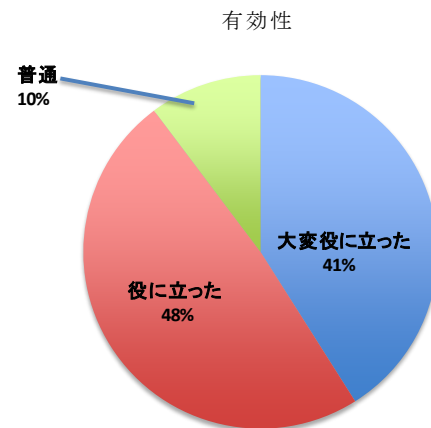
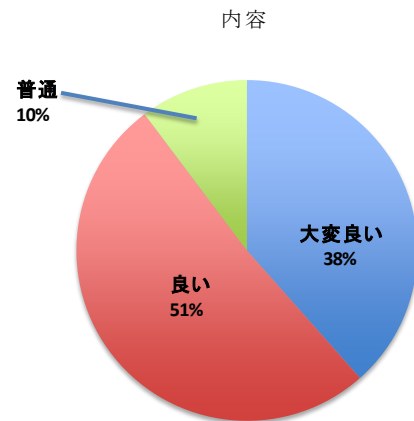
(1)内容:大変良い、よい、普通、あまりよくない、よくない

(2)有効性:大変役に立った、役に立った、普通、あまり役に立たなかった、役に立たなかった

(3)時間の長さ:不足、やや不足、適度、やや長い、長い

右図に示したように、本ワークショップの企画についての評価は、内容、有効性ともに良い評価が得られた。具体的な意見としては、「学生の取るべき具来的な姿勢について考え直すことができた」、「普段聞けないこと、考えないことなどを話し合え良かった」、「社会人として考える良い機会となった」、「働くことに対して意識がしっかり持てた」などがあり、多くの方の意識の向上に貢献できたと考えられる。

また、時間配分に関して「適度」の意見が大多数であったことから、本ワークショップの内容が充実していたということがうかがえる。ただ「時間配分を明記すべき」という意見もいただいていることから、今後企画する上で改善点もあることは確かである。



4.3. 今後の企画

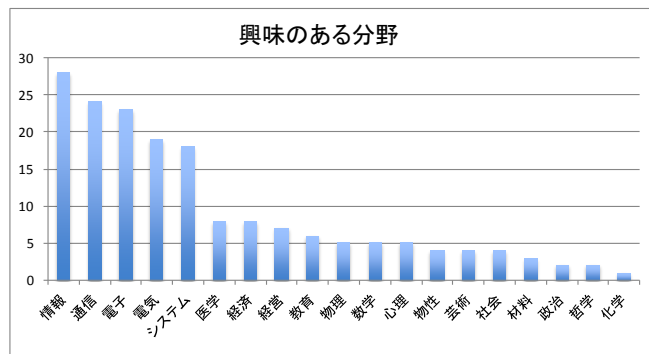
今後の企画について、参加するとしたらどのような企画を期待するか、興味のある分野は何かをそれぞれ複数回答可の選択式で訊ねた。選択肢は、以下の通りである。

(1) 今後期待する企画：

- ・ 学生同士の交流
- ・ 講演会
- ・ プレゼン講習
- ・ ディスカッション
- ・ 統計に関する講座
- ・ 英会話
- ・ その他(自由記述)

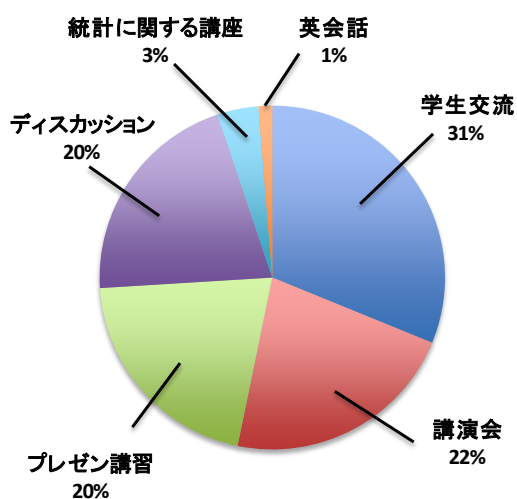
(2) 興味のある分野: 情報, 通信, 電子, 電気, システム, 医学, 経営, 経済, 教育, 物理, 数学, 心理, 物性, 芸術, 社会, 材料, 政治, 哲学, 化学

下の図に示したように、今後期待されている企画としては、講演会を中心に、国際会議に参加するためのプレゼン講習や学生同士の交流などが期待されていることがわかる。また、講演会の講演者は企業の研究者の方を希望する人が多かった。興味のある分野では情報通信・電気電子などの工学系が多かったが、化学や経済に興味を持つ人も少なからずいた。



懇親会の様子

次に期待する企画



5. 今後の展望

6 回目となる本ワークショップはこれまでと同様、良い評価を受けており、今後も実施し続けていくことによって多くの人のキャリア構築に役立てていきたいと考えている。次回は、2012年6月頃に第7回を予定している。

謝辞

本企画において、ファシリテータとしてご出席いただいた馬谷さん、小野原さん、永田さん、谷城さん、村上さん、山下さん、矢野さんへ深く感謝を申し上げます。また当日は、各グループにおいてサポート係を務めていただいた、藤浦さん、小倉さん、木村(拓)さん、武井さん、佐藤さんの5名の学生にも、感謝を申し上げます。